



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

中林梧竹記念館第3期収蔵品展を開催中

第3期収蔵品展「御衣と宝帳と香篋」を開催しています。

梧竹は明治天皇に「十七帖臨書」を献上したことにより、皇室から「御衣」や「宝帳」、「香篋」を贈られています。展示会では、皇室から贈られた品々や尊敬する人物との関係がわかる作品を展示しています。

- ◆期間 ~令和2年1月12日(日)
- ◆観覧料 200円(大学生以下無料)

▶「白羽二重御衣」
明治天皇から贈られた



歴史資料館テーマ展を開催中

歴史資料館テーマ展「静明院と篤誠院—小城へ嫁いだ女性・小城から嫁いだ女性—」を開催しています。

京都から小城に嫁いだ静明院、小城から鹿島に嫁いだ篤誠院、2人の女性に焦点を当てた展示を行い、2人の生活の中から醸し出される高貴で雅な雰囲気を感じ取っていただけるような資料をご紹介します。

- ◆期間 ~令和2年1月12日(日)
- ※1月11日(土) 11時と13時に、職員による展示解説を行います。
- ◆場所 歴史資料館 常設展示室
- ◆観覧料 無料

▶「手拭掛」
篤誠院の
婚礼道具



おぎの歴史探検隊

地中に眠る太古のロマン〈その3〉 土生遺跡群は最先端の集落だった！

土生遺跡では、大陸との関わりを裏付けるものとして、牛の角に似た持ち手が特徴的な朝鮮半島系の土器や青銅器の鋳型が出土しています。これらの遺物からは、弥生時代前期末から中期前半にかけて最先端の技術を持って渡来した人たちやその子孫が、現地の弥生人たちの中に入って仲良く生活していた様子を想像することができます。

土生遺跡と同じような状況は、隣接する久蘇遺跡や仁俣遺跡でも確認されていて、それらの遺跡をあわせて「土生遺跡群」と呼ぶようになっています。

土生遺跡群で発見された9つの鋳型には、日本国内で最初に青銅器が生産され始めた頃のものもあり、銅矛や銅剣などの貴重な青銅器が国内でも早い時期に、ここで生産されていたことを裏付けるもの

となっています。

弥生時代中期には、佐賀平野の嘉瀬川以西域で最大規模の拠点的な大集落となっていたこと、初期青銅器を生産できるだけの最先端の技術を備えた国内でも数少ない集落であったことなどが、これまでの発掘調査で明らかになっています。

土生遺跡群での発掘調査は、ほんの一部でしか行われていませんが、数々の驚くべき発見がありました。これからも調査があれば、目を見張るような発見があることは確実と考えられます。ビッグニュースが飛び込んで来るのが楽しみです！(終)

小城郷土史研究会/著



▶土生遺跡公園

◆開館時間 9時~17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日・12月29日(日)~令和2年1月4日(土)
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索